

頬骨インプラントの臨床解剖学的検討

松浦光洋 徳川友希 向山和考 大野康亮 江川 薫* 中村雅典*

昭和大学歯学部第一口腔外科学教室 *同大学歯学部第一口腔解剖学教室

高度の歯槽堤の吸収や部分的骨欠損などの上顎補綴難症例ではデンタルインプラントのみでは十分な咀嚼機能の回復をはかることが困難な場合がある。

頬骨インプラントは骨移植を行わずに、インプラント義歯の安定と咀嚼機能の回復が得られるという大きな長所がある。

しかし、頬骨インプラントの埋入の観点から、臨床解剖学的に頬骨部および上顎について検討した報告は見当たらない。そこで今回頬骨インプラントの埋入の際に重要となる部位について臨床解剖学的に検討を行ったので報告する。